

まちによりそうしびと

地域をつなぐ、はちまるサポーター



人と人がつながる地域



そっと、



はじめに

八王子市社会福祉協議会（社協）は、平成 26 年 3 月に策定した第 2 次八王子市地域福祉推進計画（いきいきプラン八王子）において、地域福祉の専門職であるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）による相談受付の場・住民による地域ネットワークづくりの場・地域での交流や福祉推進の場として「地域福祉推進拠点」を日常生活圏域毎に整備することを計画し、平成 26 年度から順次、設置し運営を開始しました。そして、9 カ所の拠点整備がされた令和 3 年 4 月に社会福祉法の改正により、「重層的支援体制整備事業（重層事業）」が新たに施行されました。

この事業は、市民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、①属性を問わない相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を柱として、これら 3 つの支援を一層効果的・円滑に実施するために、④アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、⑤多機関協働事業の 5 つの事業を一体的に実施するものです。

八王子市は、全国に先駆けて重層事業に取り組み、社協では、「地域福祉推進拠点」の運用の実績とノウハウを活かすべくこの事業を受託し、行政とともに、地域共生社会の実現を令和 3 年度より目指すことになりました。

こうしたことから、八王子市は「地域福祉推進拠点」の名称を令和 3 年 10 月に公募により「八王子まるごとサポートセンター（愛称：はちまるサポート）」に変更しました。

現在、はちまるサポートは市内 13 カ所に設置され、各はちまるサポートには、社協職員である CSW が配置され、地域の皆様からのさまざまな相談に対応しています。

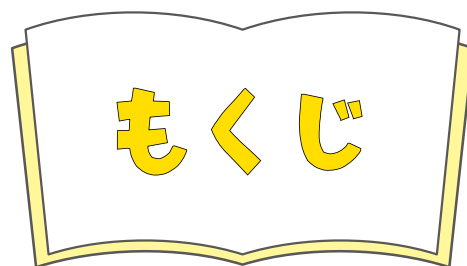
近年は、社会的な孤独・孤立・ひきこもり、こころの不調に関する生活課題や 8050、時には 9060 問題についての相談、物価高の影響を受けた生活困窮に関わること等の個別課題から騒音問題やゴミ屋敷、公共交通の減便廃止に伴う移動手段等の地域課題まで多岐にわたる相談がはちまるサポートに寄せられています。

寄せられた相談に対して、CSW は一人ひとりの生活や思いに寄り添いながら、地域の皆様や関係機関・団体、行政などと協力して、解決に向けたお手伝いをしています。

CSW や既存の制度だけではなかなか解決が難しい時は、民生委員やボランティアさんのお力を借りたり、高齢者サロンや子ども食堂など「市民力・地域力」を活かしながら、地域とのつながりを大切に活動を展開しています。

本書では令和 7 年度の活動実績について、相談件数の実績だけでなく具体的な相談事例や地域の課題に対応するための実践活動などを紹介しています。

私たちの活動報告を、ご自身のことやご家族のこととして捉えることで、自分らしい豊かな暮らしを考えるきっかけとなり、地域での助け合い・支えあいを深めていくことにつながることを願っています。



01 はじめに P.1



02 CSW とは P.3

- CSW が取り組む 5つの事業 P.3
- CSW の個別相談対応事例 P.4~P.6
- データで見る個別支援の相談実績 P.7~P.8



03 課題から生まれた地域の取り組み P.9

- はちまるサポーターの取り組み P.9 ~ P.10
- はちまるファーム・居場所の取り組み P.11~P.12
- 地域のつながり P.13

04 広報・啓発活動 P.14

05 地域ごとの取り組み P.15~P.16

06 はちまるサポート一覧 P.17

07 おわりにP.18

CSWが取り組む5つの事業

CSW(コミュニティソーシャルワーカー)とは?

コミュニティソーシャルワーカーは、地域で暮らす人たちが困った時や、地域に貢献したいと思った時に「ちょっと相談してみよう」と思える身近な相談役として、はちまるサポートに配置されています。

例えば・・・「最近、全然外に出ていないし人と話していないな」「家族のことで悩んでいる」「近所のあの人心配だな」などの声にそっと寄り添い、必要な支援につなげたり、地域の方や関係機関の方々と協力して問題解決を目指します。また、「地域のために何か活動できないかな」「こんな活動してみたいな」という方の声を、地域のネットワークを活かして形にするお手伝いをしています。

1

だれでも、どんなことでも
ご相談ください

相談の入り口

包括的相談支援事業

どんな相談でも、まずここへ！
性別、年齢、内容問わずまるごと受け止める相談窓口。
CSWが内容をお聞きし、課題を整理します。



2

居場所づくりや、地域の様々な人々がつながる
ぎっかけの場をつくります

地域づくりは社協の強み！

地域づくり事業

子ども、大人、障がいの有無などに関わらず、交流できる地域の拠点や居場所づくりを行います。また、誰もが安心して主体的に参画できる地域を目指して、分野を超えたネットワーク作りを行います。



地域の様々な居場所・
社会参加の場

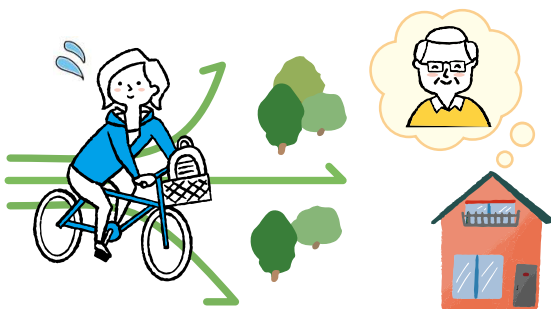
3

地域とのゆるやかなつながりのため、
ボランティアなどの社会参加をサポートします

社会参加の第一歩をサポート

参加支援事業

社会的つながり、人とのつながりが希薄、苦手な方の
第一歩をサポートします。一人ひとりに合わせた社会
参加の方法を CSW がマッチングします。



4

自分からはなかなか相談できない、窓口へ行く
のは勇気がある…そのような人のもとへこちら
から出向きます

支援が必要な人にCSWからアプローチ

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

支援が行き届いていない人に対して、支援を届けます。
また、関係づくりのためにこちらから出向いて、働き
かけを行います。



5

福祉、医療、地域、様々な分野の支援者が協力して
困りごとの解決を目指す方法を考えます

専門職の連携が大切

多機関協働事業

課題が複雑で、解決困難な場合、会議を開いて課題の
整理と、支援機関の役割分担を行います。縦割りでは
ない、横ぐしの支援を考えます。

(R8年度より事業の実施主体は八王子市へ移行)

CSWの個別相談対応事例

事例1

多機関連携により父子世帯の生活改善を図った支援

相談内容

父親（70代）と娘（20代）の2人世帯。

父親はうつ症状が悪化し、退職。亡き母親の遺産相続手続の完了、調理業務へ再就労を目指している。娘については、大学卒業後、自宅にて家事手伝いをしている。金銭面で不安があり、精神的な安定、社会参加・就労の実現を希望している。

支援のながれ

関わり当初は高齢者あんしん相談センターと共に訪問し、父子世帯の困りごとを聞き、課題を整理した。（2か月）

父親へは高齢者あんしん相談センターが関わり、病院の転院などを支援し、うつ症状が改善。娘へは、若者総合相談センターの相談支援と社会参加・就労支援の関わりを促した。はちまるサポートが実施している地域の居場所へも参加ができた。（6か月）

市保健所が娘のこころの相談、父親と娘の医療的支援全般を担当し、父子共に精神的に安定しつつある。（1年）

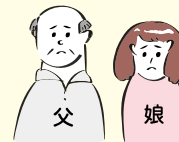
本人・世帯・地域の変化

高齢者あんしん相談センターからの要請で関与した当初は、父親にはうつ症状があり、娘は精神的に不安定で、地域で孤立している状態であったが、CSW 関与後は、介護保険サービスや医療機関の利用、趣味の再開や各種居場所への参加など、地域の社会資源とのつながりや社会参加が着実にできるようになってきている。

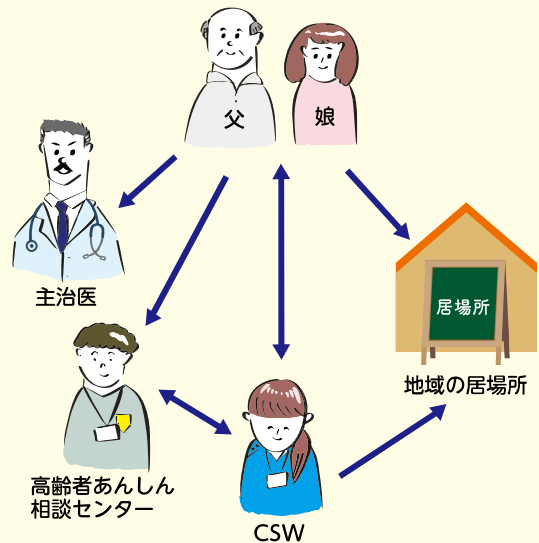
CSW の見立て

父親は、亡き母親も支援してきた高齢者あんしん相談センターが中心に関わることで、はちまるサポートは市保健所、若者総合相談センターと連携・役割分担をして娘に関わることで、父子世帯の生活課題の解決を図れると判断し、多機関で連携して対応した。

■CSW が関わる前の状況



■CSW が関わってからの状況



●成果・気づき

【成果】 多機関が連携・協働することにより、父子世帯の現状を的確に把握・共有することができ、各機関の役割を十分に発揮した個別支援を多角的に行うことができた。

【気づき】 日ごろから地域の多機関ネットワーク作りが重要であること。

●今後の方向性

今後も父子の生活課題の変化などに配慮しながら、多機関連携・協働による支援を継続して、生活課題の更なる改善・解決に努めていきたい。

CSWの個別相談対応事例

事例 2

長期ひきこもり状態にあった本人への、主体性を尊重した伴走支援

相談内容

精神疾患により、長期ひきこもり状態の中で生活が乱れ、住環境のごみ屋敷化、飲酒による服薬の不安定さなどについて親族より相談が入った。

また、支援を続ける中で本人（30代）の主訴としては、「いつかは働いてお金を稼ぎたい」との声があった。

支援のながれ

関与当初は定期訪問を実施し、関係構築に努めるほか、医療機関とも連携した。（6か月）

その後、本人の就労意欲が高まり、地域資源の情報提供や支援機関へのつなぎとして同行訪問を実施し、外出や社会との接点を徐々に広げた結果、自ら福祉的就労の場へ問い合わせを行い、利用に至った。（9か月）

各種手続き等については本人主体での実施を基本としつつ、必要に応じて助言や声掛けを行った。（1年）

全体を通して、代わりに実施、一緒に実施するばかりではなく、“本人ができるよう支える”関わりを意識した。

本人・世帯・地域の変化

福祉事業所への継続的な通所により、生活リズムが安定、対人場面への抵抗感が軽減し自然なコミュニケーションが可能になった。また、感謝や挨拶の言葉など社会的なやりとりが見られるよう変化。将来の展望や希望についても言葉にするようになった。

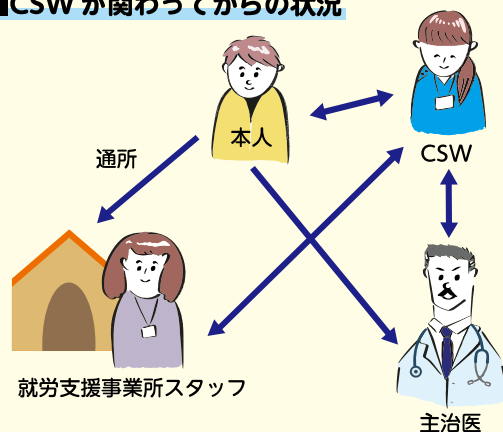
CSWの見立て

当初は生活の不安定さや対人関係の困難さから、施設入所も視野に対応することが必要と思われた。しかし関わりを重ねる中で、本人には社会参加の意欲や自立志向が内在していると捉え直し、本人のニーズの丁寧な把握、気持ちやペースを優先した関わりへ転換した。また、家庭内外に安心して頼れる存在が乏しい状況を踏まえ、CSWが「安全な他者」として信頼関係を構築することを重視した。

■CSWが関わる前の状況



■CSWが関わってからの状況



●成果・気づき

【成果】 本人の可能性を早期に限定せず、関係性の構築を基盤に主体性を引き出したことが、就労という具体的な成果につながった。

【気づき】 本人のペースを尊重しつつ、「できる部分は本人に委ねる」支援を行ったことで、自己決定力や自信の向上が促されたように思う。また、安心できる他者として関わり続けると自体が、行動変容の重要な基盤となることを再確認した。

●今後の方向性

今後は就労の安定継続を支えつつ、本人が希望するさらなるステップアップに向け各機関と協働し支援を行う。

本人が思い描く「自立」に向けて、主体性を大切にしながら伴走していきたい。

CSWの個別相談対応事例

事例3 本人の“好きなこと”を、地域の力で実現した参加支援

相談内容

最初は母（50代）から娘についての相談があり、本人も来所。

本人（20代）より、「現在、家族としか関わっていない。なんとかしたい。」という趣旨の相談があった。何とかしないといけない気持ち、働きたいという気持ちもあるが、なかなか動けず困っている様子であった。

支援のながれ

相談を受けた際に、本人より過去に楽器の演奏経験があることを聞き取った。それを受けて、地域のサロン団体へ相談を投げかけたところ、参加を快諾。

本人にも提案し、CSW 同行のもとサロン開催時に見学、演奏をしてみる。（2か月）

徐々に CSW の同行なくサロンへ参加できるようになり、現在も継続して参加。家族以外の地域の方々との関わりが広がり、演奏の活動の幅も広がっている。（6か月）

本人・世帯・地域の変化

演奏を通じて他者との交流や、サロンでの活動を通じて、心地よい緊張感と充足感を感じながら継続参加している。

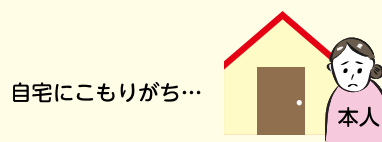
就労への気持ちも変わらず、活動しながら無理のないタイミングで就労に向けて動き出せたらとの意向がある。

なにより、安定して特定の場所へ参加することができるようになっている。

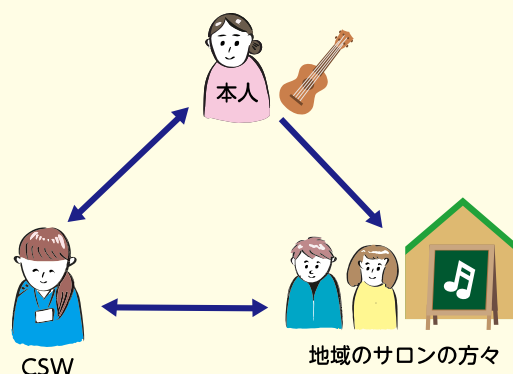
CSW の見立て

本人は穏やかで、会話のキャッチボールも問題なく理解力もあるが、社会とのつながりがなく、就労に踏み出すには不安が強い印象を受けた。まずは家族ではない誰かと関わって、気持ちを慣らしてから徐々にステップアップし、就労を目指すのはどうかという提案をした。

■CSW が関わる前の状況



■CSW が関わってからの状況



●成果・気づき

ご本人の希望がご本人の状態と必ずしも合っているわけではない。『希望を実現させるためのステップ』が必要であることも多い。様々な地域活動は、社会に出たいが一步踏み出せない方にとって必要な存在であり、大変ありがたい存在だと改めて感じた。CSW の日ごろの地域とのつながりを活かして、地域の方の力を借りながら取り組めた事例である。

●今後の方向性

本人が就労に向けて無理なくステップアップできるよう、サロン活動以外の居場所の情報提供や、地域と共に本人に伴走する支援をしていきたい。



個別支援の相談実績

はちまるサポートでは、事例のように様々なご相談をお受けします。子どもから高齢者まで、幅広い年代、多岐にわたる内容のご相談をお聞きしながら、適切な機関や支援制度へつないでいます。

1つのご世帯で複合的に課題を抱えている場合は、各機関と連携し、社協の強みである地域とのつながりも活かし、課題解決に向けて対応を行っています。

【相談件数】

令和7年度 新規相談件数・・・・・・ 1,081 件

➡内訳

個別支援に関する相談
・・・・・・・・・・・・・・・・ 1,010 件
(困りごとなどの相談)

地域支援に関する相談
・・・・・・・・・・・・・・・・ 71 件
(地域づくり、居場所づくりなどの相談)

相談内容統計

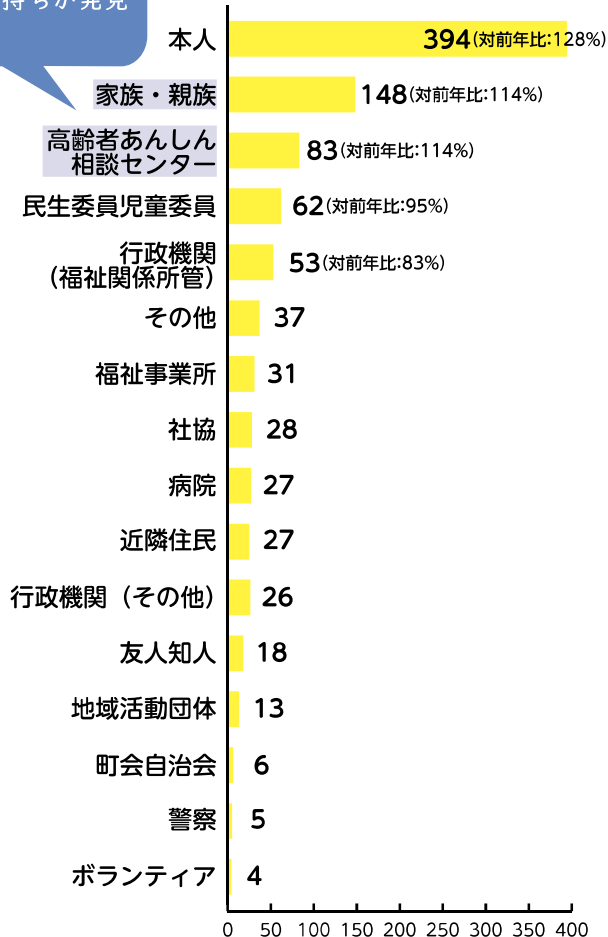
① 相談経路

はちまるサポートの認知度向上に伴い、本人からの相談が増加傾向にあります。同居のご家族などの件で、相談先に困り親族から相談が入るケースも増えています。

前年に引き続き、高齢者あんしん相談センターより高齢者と同居の家族に関する相談も多く、8050 問題については周囲の気づきが早期介入の糸口となっています。

ひきこもり、8050 問題は周囲の気づきや心配という気持ちが発見のきっかけになります。

相談経路



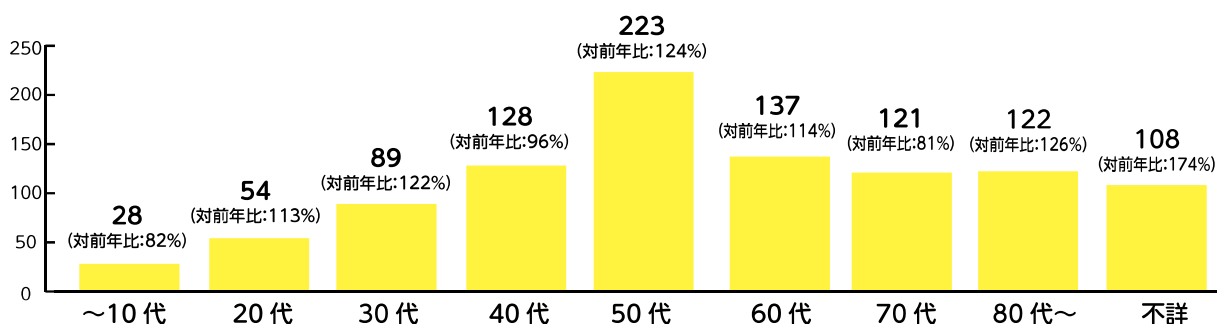
② 年代別相談者

前年同様、50～60代で各機関の相談対象年齢から外れる年齢からの相談が引き続き多い状況です。

30代、80代以降の方々も増加傾向にあります。30代の相談内容としては心の問題に関するものが最も多く、病院や親からの相談が多いことから、医療機関との連携、情報発信の効果が件数増加につながっていると言えます。

80代については8050問題の増加に伴い、自身の健康状態に関することと共に、同居の息子や娘に関する相談で、高齢者あんしん相談センターと共に対応をするケースが増えているためと考えられます。

年代別相談者



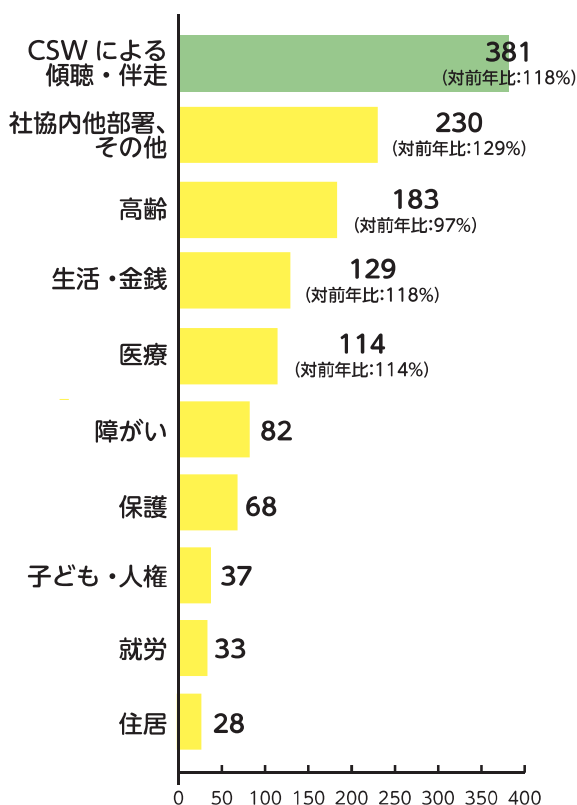
③ 相談内容

諸手続きや孤独感に関する相談が多いことから
も明らかであるが、福祉サービスの利用などには
至らないが、制度利用や手続きへの不安がある方
など、従来の家族の形であればその中で解決でき
ていたことに対する困りごとが多く寄せられまし
た。また、物価高騰などの影響のためか、収入や
生活費に関する相談も増加傾向にあります。

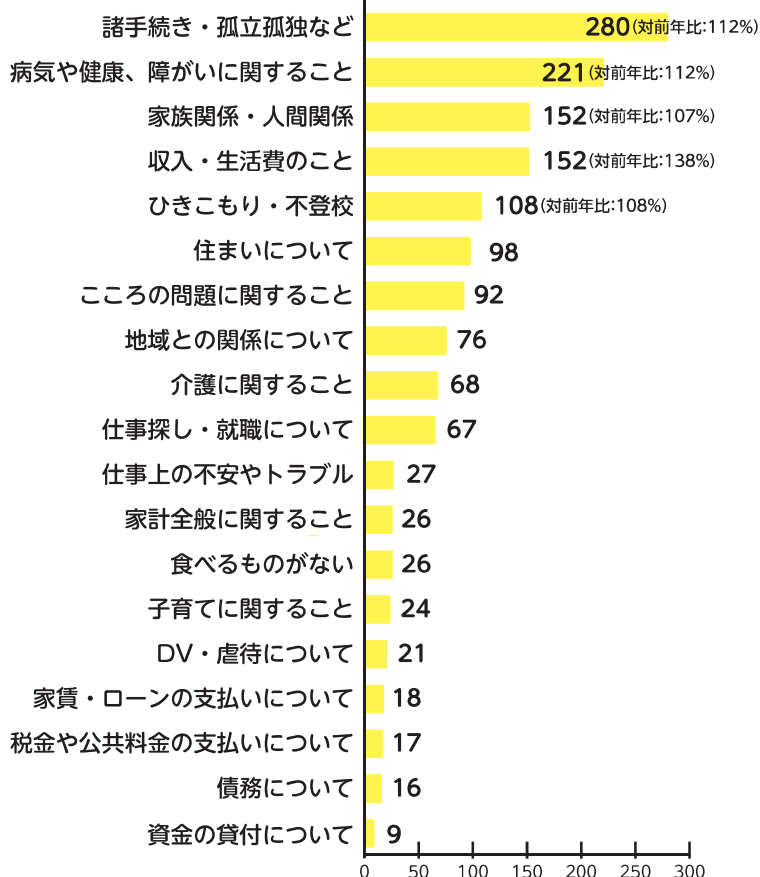
④ 相談内容に応じたつなぎ先

相談内容からつなぎ先として最も多かったのは
CSW による寄り添いが必要な「伴走支援」のケー
スでした。背景には、「身近に相談できる人がい
ない」「安心して話せる場所がない」という深い
孤立感や、既存の制度や支援にすぐにつながら
ない、いわゆる「制度の狭間」で苦しむ方々の多
さがあります。こうした複合的な課題を抱える方
に対しては、既存の制度につなぐだけではなく、
本人の気持ちに寄り添いながら共に歩む「寄り添
い型の支援」が不可欠です。また、「その他」の
項目において、地域活動団体や NPO 等へのコー
ディネート実績が増えていることから、社協なら
ではの「地域のつながり」を活かした伴走支援が
具現化されている表れと言えます。

相談内容に応じたつなぎ先



相談内容



つなぎ先・連携先の内訳

高齢

高齢者あんしん相談センター、高齢者福祉課、居宅介護支援事業所など

生活・金銭

生活支援課 (R8.7.1 ~)、行政の保険年金担当、フードバンク、法テラスなど

医療

医療機関、保健所など

障がい

行政の障害担当、基幹相談支援センター、障害者就労支援事業所など

保護

行政の生活保護担当、警察など

子ども・人権

こども家庭センター、児童相談所、行政のこども家庭担当など

就労

ハローワーク、八王子若者サポートステーション、就労準備支援機関

住居

不動産、保証関係会社、居住支援協議会

その他

社協内の他部署、民生委員・児童委員、サロン、子ども食堂、その他行政担当部署、町会自治会、近隣住民、ひきこもり支援機関、外国人支援団体など

課題から生まれた地域の取り組み

〇はちまるサポーター

目的・きっかけ

令和3年度より、はちまるサポートで包括的相談を実施するなかで、自ら相談することが難しい方、SOSを発信することが難しい方と数多く対面してきました。その方々の大半は、周囲の方の“気づき”が相談につながるきっかけとなっていました。CSW だけでは発見することが難しい、地域に埋もれている困っている人をつなぎ、CSW と共に考えていただける方たちを募り、R5 年度より活動をスタートしました。

令和7年度時点登録者数：172名

「はちまるサポーター」とは・・・「はちまるサポート」の心強い地域の味方！

「はちまるサポーター」は、はちまるサポートの活動を理解していただき、登録していただいたボランティアの皆さんです。

主な活動内容

- ① はちまるサポートへ地域の情報を届ける（地域の魅力や課題）
 - ② 地域の中で課題のありそうな個人や家族を早期に発見・連絡（課題の深刻化防止）
- ★はちまるサポートから、はちまるサポーターの皆さんへ様々な情報を発信しています。
その情報を基に、サポーターさん自身も地域の中で活躍されています！

サポーターの仕組み

1

気になるわ…相談しよう



気になる…

心配なひと・場所



はちまるサポート CSW

2

訪問してみました



訪問

支援

3

参加してみるか

参加を支援！

地域の居場所



はちまるサポート CSW

サポーターさんも交流の場に参加！

4

居場所ができた！



地域の方、サポーターとのつながりでゆるやかな見守り

地域の居場所



活動風景



はちまるサポートの活動や取り組みも、地域のサポーターのみなさんと一緒に考えます。
一番の地域の理解者であるサポーターの声は地域づくりをするうえで一番大切！

様々な活動を通じて、
「今日地域でこんな人見かけたよ」「最近●●さん見ないね」「あそこの建物、□□のお店になったみたい！」
などなど…サポーターのみなさんから様々な地域の情報が日々届いています。

はちまるサポーターの必要性

はちまるサポートは、常に地域の方と共に歩んできました。9ページに記載の通り、現在172名のサポーターのみなさんが、各地域で様々な気づきをCSWにつなぎ、またそこからつながった方々を地域の居場所などでゆるやかに見守ってくださっています。

「私に何ができるかな」と不安を口にされていた方も、実際につないでいただいた方の元気な姿に「やってよかった」と言ってくださっています。

声なき声をひろうためには、そこで暮らす方ならではの気付きが必要だと感じています。

サポーターのみなさんからの声①

なんではちまるサポーターになろうと思ったの？



自分もいつか年をとっていきから、そのときに助けてもらえるように自分がまず活動してみようと思った



助け合いの気持ちを、周囲の人や次の世代につなぎたい



仕事もひと段落して手持無沙汰だったから、地域の子どものために何かできたらと思った

サポーター同士のつながり

活動上の心配事や地域情報の共有、社会資源についての学びの場として、はちまるサポーター交流会も開催しています。参加者同士で話をしてみると、地域によって課題に感じるものが異なることがわかりました。

また、改めてサポーターになられての心配事を聞いてみると、「相談につないだら迷惑じゃないか」「そっとしておくべきか悩んでしまう」など、“つなぐ”ことへの心配事が明らかになりました。

別のサポーターから「まずは日常の挨拶から始めてみたらいいのではないか」「迷ったらはちまるのCSWに相談したらいい」など、心配事への解決策についても意見が出ました。サポーターであり、その地域で暮らす住民のみなさん一人ひとりが、主体的に考えることが、地域のことを“自分事”として捉え、今後どのような地域であれば暮らしやすい場所になるか、一緒に考える非常に重要な機会となっています。

社会資源に関してゲームを通じて学ぶ機会も、自分自身のためにもなった、と非常に好評でした。



サポーターのみなさんからの声②

やってみてどうだった？

誰かに頼りにされることで喜びを感じることができた！



交流会や学習会で、色々な地域のサポーターと話すことができて、とても刺激になった！



相手の為だけでなく、自分自身も人や地域に貢献できていると実感できて、前向きな気持ちになった！



実際に活動されている方々の様子です！



はちまるサポーターの動画をご覧ください！

課題から生まれた地域の取り組み

\\ こんなにあるよ! //

孤立しないためには、多様な選択肢が必要です。
地域特性を生かして、様々な社会参加の場を
地域の方と一緒に構築してきました。

● はちまるファーム



市内2か所で運営しているはちまるファーム！
地域の方のご協力で、多様な方が参加できる
地域の畑として運営してきました。令和7年
度も多くの方にご参加いただき、様々な作物
の育成と収穫に挑戦しました！

収穫物を活用したイベントや交流も行い、
「畑」という八王子ならではの地域の資源を真
ん中に、子どもから大人までゆるやかにつな
がりながら、自分のペースで社会参加できる
場となりました。



香板などもみんなの手作り！



みなさんと収穫した野菜は、ボランティアセンター
を通じて、市内の子ども食堂などへ提供しています！



地域への提供だけでなく、参加し
ていただくみなさんとの調理体験
や芋煮会で交流も行っています！

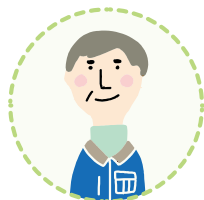
● 参加してみてもうだった？



元不登校のAさん

ここでの活動が将来につながった！

長年不登校で、人と関わることに極度の緊張があった。
何度かファームの活動に参加し、色々な人と話をしたり活動することに次第に慣れていった。
その結果継続した社会貢献活動が評価され、通信制高校から大学へ進学することができた。



ボランティアBさん

定年後の新たな道へ！

定年で仕事を辞めてから何となく迷子状態で、人と会ったり外出したりするのも億劫
になっていました。そんな時に知人から「はちまるファーム」に誘われたのが、参加
のきっかけ。ファームに通ううちに、人と接することが楽しくなり、今ではファーム
以外の活動も行っています。

自分のペースで過ごせる場所

居場所のはじまり

令和6年度より地域の状況に応じて、地域の方と一緒に居場所を運営しています。はちまるサポートで様々なご相談をお受けする中でこんな声がありました。「属性を問わず行ける場所はないかな」「〇〇に行こうと思ったけど年齢でだめだった」「診断がないことで利用ができなかった」等。

本人は寂しい、困っている。でも、自分に合う場所、行ける場所がなかなか見つからない、行きたいけど勇気がない…まさにはちまるサポートで長年対応してきた、制度の狭間にいる方々の率直な悩みでした。そのような声を受け、誰でも参加でき、そこに行けば地域の方とつながれる、どんな場所であれば地域のみなさんが主体的に、安心して参加できるか、地域のみなさんと一緒に考え、今の居場所ができました。

活動データ

場所 ▶ はちまるサポート川口

まるまるすぺーす川口

開催回数: 12回(月1回)
参加延人数: 338名
(令和6年度: 60名)

場所 ▶ はちまるサポート元八王子

まるまるすぺーす元八王子

開催回数: 6回(2か月に1回)
参加延人数: 106名
(令和6年度: 73名)



場所 ▶ 中野団地の集会所

このいろ

開催回数: 12回(月1回)
参加延人数: 174名
(令和6年度: 60名)

場所 ▶ 恩方市民センター

まるまるすぺーす恩方(令和7年春開始)

開催回数: 9回
※長期休み等不定期開催
参加延人数: 237名



場所 ▶ 浅川市民センター

ANTs(令和7年5月開始)

開催回数: 11回(月1回)
参加延人数: 93名



参加者からはこのような声をいただいています

あなたにとっての居場所とは？

Aさん(50代男性)

人と会えるのが嬉しい。今まではそれができなかったから。

Bさん(40代男性)

楽しいイベントがあるから参加しています。

Cさん(60代男性)

CSWに誘われて、最初はなんとなく参加していたけど、今は毎回参加している。大変だった頃を考えると今は本当によかった。

地域の方あつての居場所

各居場所には、はちまるサポーターなど地域の方も運営に参加してくださっています。運営に協力して下さる方々も、参加される方々も、なぜここに来ることになったかは気にしません。だから、一人ひとりが自分らしく過ごせる場所になっていると思います。

また、最初は参加者として来ていた方々が、片付けをしたり「こんなことしたいな」と、ご自身の意見を言うてくださるようになります。そこには、自分の気持ちを話しても受け止めてもらえる安心感があるのだと思います。地域ならではのあたたかい居場所となっています。

CSW の具体的取り組み

\\ 広がっています! //

地域のつながり

はちまるサポートは、地域のみなさんとのつながりの中で地域づくりをしています

浅川

浅川地域の つながりを持つ会



浅川地域で活動するさまざまな地域活動団体の交流会を行っています。令和7年度は参加団体みんなで市民センターまつりに参加し、それぞれの団体の活動をPRしました。

ただ交流会をするだけではなく、一緒に活動することで、団体同士のつながりがより深まっています。

はちまるはつながりを持つ会の活動をバックアップしています。

効果

PR活動を通じて、孤立孤独などの課題解決に向けて活動する団体が浅川にあることを地域の方に知ってもらうことができました。困りごとを抱える当事者へとつながる第一歩になりました。

大和田市民センターを彩ろう！そんな思いで始まったプロジェクト。大和田地域住民協議会、大和田市民センター、愛光大和田保育園、グループホーム八王子ソラストまりや、高齢者あんしん相談センター大和田、はちまるサポート大和田、普段は別々のことに取り組むみなさんと、市民センターの「オレンジガーデン」にお花を植えて地域に色を添えました。花をきっかけに地域がつながり、相互に助け合える仕組みにつなげていきたいです。

効果

地域の拠点である「大和田市民センター」を通じ、世代間交流を図ることができました。

活動の場が生まれるだけでなく、顔見知りが増えることで日ごろの関係から有事の際などの孤立を防ぐことにもつながります。

大和田市民センターを 彩る実行員会

大和田



恩方

まるまるすぺーす恩方



まるまるすぺーす恩方は、子どもの居場所です。

恩方地域では、子どもの居場所が少なく、その担い手がないことが大きな課題でした。子どもからも声があがただけではなく、家に1人でいさせることを不安に思う保護者も多く、「こどもの居場所」を求める声があったため、地域の様々な団体の方と意見交換を何度も重ねながら、地域を一緒に考えていく中で、まるまるすぺーす恩方は立ち上がりました。

効果

まるまるすぺーす恩方開催時には、広報活動への協力や、当日の手伝いなど、様々な方が協力してくださっています。また、地域の団体との協働イベント開催など、皆さまと共に協力・支え合いながら活動を進めています。

広報・啓発活動

はちまるサポートについてや、私たち CSW の日々の取り組み、孤立孤独に対する取り組みを幅広く地域みなさんに知っていただくため、イベントの開催や参加を通じて情報発信をしています！
自分たちが暮らすまちのことを考える機会や、地域で何かしてみたい、そんな思いをつないでいききっかけにもなればと思っています。

地域共生の まちづくり推進 セミナー



会場・オンライン
合わせて
225名が参加！

パネラー

(株)スーパーアルプス
まほうのほうき
おかえり喫茶

メイン講師

NPO 法人抱樸
奥田 知志氏

地域の問題を、地域の方々と一緒に考える機会を作るためのセミナーを開催しました。

一人暮らし、家族と疎遠、困っているけど相談できる人がいない・・・いわゆる「孤独孤立」状態にある方が増えています。

孤独孤立を解消しよう！と思うと、少しハードルが高く感じるかもしれませんが、日常のちょっとした声掛け、挨拶、気付きでいい、みんなができる範囲のことを少しやれば、つながりは作れるんだ、そんなメッセージを届ける会となりました。

地域のつながりづくりのために、先駆的に取り組んでいる奥田様、地域でつながり作りのために頑張る企業や団体のみなさんにお話いただきました！



地域のイベントにも参加しています！

各地域の住民協議会主催のおまつり（市民センターまつり）や、他組織などが実施する地域イベントに参加し、日々の活動や地域情報などを発信しています！

各地域のボランティアの方々や社会参加を希望する方々にも一緒に参加いただき、一緒に地域を盛り上げていただいています！

「相談窓口」は敷居が高く感じる方も、日ごろの活動や私たちが実施するイベント、社協としての取り組みなどをお伝えすることで、身近に感じていただけたらと思っています。

普段は居場所に“参加”して下さる方も、地域イベントに“担い手”として協力してくれています！



終わってから、「楽しかったね〜」「次も頑張ろう！」と話していると、自然にみんなが仲間になったことを感じます。

これからも地域のイベントや活動の場で、地域みなさんとお会いできる機会を大切にしていきます！



地域ごとの取り組み

西部

● 特徴

市域 4 割の面積で 6 圏域最大！定住意向の割合も最大！合併前の町村部としてのまとまりが強く、伝統を重んじ、人と人とのつながりが強い地域です。ここ数年は、首都圏各地への交通利便性がある圏央道八王子西 IC を中心に、道路や物流拠点の整備が進んでいます。新たな住宅街も増え、変化が著しいエリアと、野生動物による農作物被害が深刻な自然豊かなエリアと、様々な顔を持つ、今後の発展が期待される魅力あふれる地域となっています。

● こんなことやってます！

令和元年台風 19 号の被害のあった恩方エリアでは毎年、地域と社協が災害対応の取り組みを実施しています。圏域内の各所では、地域住民だけではなく様々な人が主役となる「マルシェ」が開催されています。

さらに、旧町村単位でお祭りや防災訓練を実施するなど深い郷土愛から人と人、人とまちがつながるきっかけが展開されています。また、中・高校生が放置果実を収穫し、商品化する取り組みを実施するなど、地域内の様々な関係機関との連携が活発に行われています！

西南部

● 特徴

世界有数の登山者数があるとされている高尾山があり、人気観光スポットが数多くあります！地域の半分西側が山間部、東側中央を JR 中央線・京王高尾線が走っています。大型商業施設や病院、始発駅もあることから人口増加率が高いエリアです。昭和の大規模な開発団地が多々あり、高齢化率が高い地区が多いことも特徴です。浅川エリアは旧町単位でお祭りや運動会を実施するなど郷土愛から人びとのつながりが強いです。現在、地域の南側に市域を東西につなぐ国道 20 号八王子南バイパスを整備中で、大きな変化をもたらす可能性を秘めた地域です。

● こんなことやってます！

秋に甲州街道で開催される市民まつり「いちよう祭り」は有名です。また、横山南地区では、若年層に人気のマーチングフェスティバルや UR 開発のグリーンヒル寺田や館ヶ丘団地では地域住民が中心となり商店街を利用したカフェや「マルシェ」が行われています。さらに、町会・自治会の枠を超えた住民同士の見守りの仕組みや防災活動、移送手段の確保の取り組みが各地で展開されています。そして、令和元年台風 19 号の被害のあった浅川エリアでは毎年、地域社会と社協が災害対応の取り組みを実施しています。



東南部

● 特徴

昭和 30 年に合併した旧由井村、地域の北側を走る京王線や京王高尾線と南北に走る JR 横浜線沿いに住宅地が広がるベッドタウンエリア。平成 9 年に JR 横浜線に新駅を設置し、街びらきした八王子ニュータウン（みなみ野）が象徴的です。多摩丘陵に開発された住宅街は敷地面積が広く良好な住環境であるが、高齢化率が高く、駅まで高低差がある地区が多い。かつて丘陵に囲まれた農村の面影は消えつつあります。京王線や JR 横浜線、国道 16 号や同バイパスさらに国道 20 号八王子南バイパスが予定されるなど交通インフラが充実しています。

● こんなことやってます！

合併前からある地区では様々な地域行事を通じて新旧住民が交流しています。開発団地でもお祭りや防災活動を実施し、地域の結びつきを深めています。それぞれの地区毎に、課題に応じた、住民主体の活動（サロン・子ども食堂・サークル）が活発に行われています。開発時期やエリアの近い開発団地同士が町会自治会の垣根を超え、課題共有や対応を話し合う意見交換を地域の医療や介護、福祉関係者を巻き込みながら定期的に開催しています。広域な課題に対応する活発な NPO・市民活動団体が多数あります。

北 部

● 特徴

6 圏域最小の人口と世帯数！北側はあきる野市、昭島市に、東側は日野市に隣接する東西に細長い地域。地域を東西に走る新旧の滝山街道は、国道 16 号や同バイパスと接続し、さらに中央道八王子インターチェンジ (IC) があり、さらに JR 八高線北八王子駅・小宮駅があり北の玄関口的存在。八王子 IC を中心に物流拠点や工業団地が点在し、さらに開発が進んでいます。旧加住村のエリアでは、滝山城をはじめとする観光資源や都内で最大規模と言われる水田地帯などの地区の魅力を、地域が主体となってイベントなどを通じて発信しています。

● こんなことやってます！

毎年、「介護の日」の前後に滝山街道沿いの社会福祉法人が合同で医療機関などを巻き込みながら介護を身近に感じていただくイベントを開催。地域内にある福祉施設は決して多いとは言えませんが、地域社会への貢献を積極的に実施しています。また、市内で初めて開設された「はちまるサポート石川」の交流スペースでは、これまで 12 年間で地域住民が主体となり「コミュニティカフェ」や「子ども食堂」が立ち上がり、地域交流の場として継続実施しています。さらに、CSW や福祉関係者が開催する福祉講座を通じて、地域の人材育成を図っています。

中 央

● 特徴

多摩地域最大の都市中心地！人口、世帯数とも最も多く、増加傾向にあります。JR 八王子駅や京王八王子駅を中心に広がる中心市街地と JR 西八王子駅周辺の市街地からなり、商業施設や病院、公共施設が集まり、生活利便性が高いエリア。駅周辺ではマンション開発が盛んに行われ、八王子駅南口には新たな市民のサードプレイス「桑都の杜」が 2026 年秋オープン！毎年 8 月には、都内屈指の山車祭りである「八王子まつり」が 2 つの神社の氏子町会を中心に行われ、伝統文化も色濃く残っています。まつりを中心に旧住民と新住民が融合し、強い地域の結びつきがある一方で、マンションや賃貸住宅が多く、また単独世帯の割合がとて高く、地域のつながりは希薄になりがちです。

● こんなことやってます！

現在、市内 91 か所ある子ども食堂などの子どもの居場所にうち、最多の 31 が中央で活動。若い世代や現役世代による市民活動が活発に展開されています。さらに、店舗や企業の強みを活かした地域貢献活動も盛んに行われています。また、公共施設の充実から行政主導または市民主体の様々な活動が市内外から集まった人々によって行われています。八王子駅近くで、孤独・孤立対策を官民連携で進めるため、だれでも気軽に集える居場所「ことこの家」を 2025 年 10 月から開始。さらに、ボランティアセンターでは、八王子駅周辺のゴミ拾いと人々の交流を兼ねた「ちょいボラ」を店舗をお借りして月 1 回開催しています。



東 部

● 特徴

昭和 39 年、最後に合併したのが旧由木村です。北側が日野市、東側が多摩市、南側が町田市と三方が市外と接する位置にあり、鉄道が新宿や立川を目指すことから独自の文化が形成されています。地域の南側半分は自然環境と調和した良好な居住環境である多摩ニュータウンが広がり、商業施設や遊歩道、公園が整備されるなど、美しい街並みが魅力です。全国でも有数の学園都市である市内大学等 25 校のうち 10 校が立地しており、若者の活気が感じられます。

開発によって形成された地区が多くを占めており、比較的新しい自治会や管理組合が多く年少人口比率も高い特徴のため、住民同士や地域のつながりが希薄になる傾向があります。

● こんなことやってます！

八王子市との合併 50 周年から旧住民と新住民が交流できる場として大栗川を舞台としたイベントが住民主体で実施されています。また、竹をテーマに子どもやその家族が多く参加するイベントも地域が主体となり開催され、学生も多く参加しています。里山の自然環境を保全した公園では保全活動等に多くの地域の方々が参加し、住民との協働により NPO 法人が管理運営しています。入居が早かった鹿島・松が谷地域では住民主体のまちづくりの機運醸成の話し合いが進められ、住民の意見をもとに共生型交流拠点を商店街に設け地域活性化を図っています。

豊かな自然を利用し、はちまるサポートが地域住民とともに「はちまるファーム南陽台」を実施しており、こちらも地域のつながりを育む場になっています。



はちまるサポート一覧

地域	窓口	場所	連絡先	担当地域
中央	子安	八王子駅南口 総合事務所内	649-6955	追分町、千人町、日吉町、元本郷町、長房町（水崎町会）、八幡町、八木町、平岡町、本郷町、大横町、小門町、台町、子安町、寺町、万町、上野町、天神町、南新町、緑町、旭町 1-18、小比企町 846
	大和田	大和田 市民センター内	649-3228	暁町、旭町、東町、大谷町の一部、大和田町、清川町、新町、田町、中野上町、中野山王、中野町、中町、富士見町、本町、三崎町、南町、明神町、元横山町、八日町、横山町
北部	石川	石川事務所内	649-3390	石川町、宇津木町、大谷町（一部を除く）、久保山町、小宮町、平町、高倉町、丸山町
	加住	加住事務所内	696-3085	梅坪町、尾崎町、加住町、左入町、高月町、滝山町、丹木町、戸吹町、中野山王二丁目（8）、みつ台、宮下町、谷野町
西部	川口	川口事務所内	652-9116	犬目町、上川町、川口町、檜原町、美山町
	恩方	恩方事務所内	659-1107	下恩方町、上恩方町、西寺方町、小津町
	元八王子	元八王子 事務所内	686-2280	元八王子町、上壱分方町、諏訪町、四谷町、泉町、叶谷町、大楽寺町、式分方町、川町、横川町、長房町（つつじヶ丘地区 194-2 番地、196 番地、197-16 から 22 番地、202-1 から 4 番地）
西南部	浅川	浅川 市民センター内	629-9444	裏高尾町、高尾町、廿里町、西浅川町、狭間町、初沢町、東浅川町、南浅川町、散田町
	長房	長房 ふれあい館内	629-9511	城山手、長房町（水崎町会、194-2 ～ 197-22、202-4 を除く）、並木町
	館	館事務所内	673-5540	寺田町、櫛田町、館町、大船町、めじろ台、山田町
東南部	由井	由井事務所内	683-2111	打越町、宇津貫町、片倉町、北野台、北野町、絹ヶ丘、小比企町、長沼町、七国、西片倉町、兵衛、みなみ野
東部	由木	由木事務所内	670-9885	上柚木、越野、下柚木、中山、南陽台、別所、堀之内、松木、南大沢、鑑水
	由木東	由木東事務所内	682-4885	大塚、鹿島、東中野、松が谷

おわりに

令和7年度は、はちまるサポートにつながった相談や地域で出会った市民一人ひとりの声にCSWが耳を傾け、関係機関や地域の皆さんと連携しながら、地域づくりの実践に取り組んできました。

活動を通じて、生活課題は個人だけの問題ではなく、地域とのつながりや支えあいによって解決への道筋が見えてくることを改めて実感しました。また、市民の皆さんと共同して地域づくりを実施していくことで、多くの学びと力をいただきました。

一方で、孤独・孤立や生活困窮、複合的な課題を抱える世帯への支援など、地域には依然としてさまざまな課題が存在しています。

そのような中だからこそ、人と人、人と地域をつなぐコミュニティソーシャルワークが果たすべき役割は重要で、時代とともにますます大きくなると感じています。

今後も地域の皆さんとともに歩みながら、誰もが安心して暮らし続けることのできる地域づくりを目指し、一つひとつの出会いと対話を大切にしながら活動を進めてまいります。

最後になりましたが、多くの方々とのつながり・連携により、はちまるサポートは運営できています。市民の方々をはじめ、福祉・医療・保健その他日常生活に関する様々な分野で活躍されている機関の皆さまのご理解・ご支援を、引き続きお願い申し上げます。

社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会 はちまるサポート CSW 一同



社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会

発行・編集：社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会 支えあい推進課
電 話：042-673-4935 メール：sasaeai@8-shakyo.or.jp